



金光寺の12月恒例行事 仏具磨き(おみがき)(今月9日撮影)

慧^え

光^{こう}

金光寺寺報
第162号
発行所 金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
5927番地
0982
83-2338

今月のことば

永遠の拠り所を、与えてくださるのが 南無阿弥陀仏の生活である

「依りどころ」と申しますと、私どもは常に何を依りどころ(あてたより)として生きているようす。それは人それぞれに、財産であったり、教育や学問・知識であったり、健康や家族であったり。夢とか希望とか、最近では絆という言葉もよく聞きます。しかし、これらのものは刻々と移り変わっていくものであり、時には何もかもなくなってしまうことさえあります。今日ともしらず、明日ともわからないこの人生の終わりに至って、私が大切に握りしめてきたこれらのものは、何一つ私に寄り添うものはないのです。では、「永遠の依りどころ」とはどのようなものを言うのでしょうか。

阿弥陀さまは私がこの世のいのちを終えて帰るところ、広大無辺のお浄土をご用意くださいました。そのお浄土から阿弥陀さまがこのシャバに来てく

ださっている、その姿が名号「南無阿弥陀仏」です。私の命の中に入り満ちて、この口からお称名となってこぼれ出てくださいます。それは、「あなたを必ずこの弥陀の浄土に迎えとるから安心しなさい」と喚んでくださる喚び声です。南無阿弥陀仏の生活とは、この阿弥陀さまの喚び声を、わが称える念仏の中に聞いていくところにあります。ですから、お念仏の人は常に阿弥陀さまが一緒です。

親鸞聖人のよろこびは、生きているたった今、如来さまのお浄土に間違いなく往生させていただく身に定まった、というよろこびでありました。死んでから先だけの話ではないのです。只今が、お浄土参りの道中です。

(本願寺出版社刊「大乘」誌より転載)

平成27年の年回忌

今年の年回忌については秋参り・恩講でご案内を届けましたが、配布忘れがあるかもしれません。改めて今年の年回忌該当年をお知らせします。

一周忌	平成26年
3回忌	平成25年
7回忌	平成21年
13回忌	平成15年
17回忌	平成11年
25回忌	平成3年
33回忌	昭和58年
50回忌	昭和41年
100回忌	大正5年

11月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

2014年11月 5日 寂 満85歳
揚 甲 斐 ケサ子様

ホームページ開いています。
URL <http://konkhoji.jp/>
12月9日現在 アクセス数 75,101人

今月五日の積雪にはびっくりしました。こんなに早く十センチほど雪が降ったのは最近では記憶にありません。でも、五日はスキー場オープンの日。さいはいいスタートになったのではないのでしょうか。十一月二十九日、荒谷の白瀧倫大さんと桑野内の小方友見さんの仏前結婚式のご縁がありました。記念になるようにと結構気を使って式に臨んだのですが、媒酌人の方に「感激しました」とお言葉をいただきました。とはいうものごとく二人の思いはどうだったのかなとも思うことです。お二人の心に届く結婚式であつたらなと思つています。末永くお幸せに！二〇一四年を迎え心新たに新年を迎えたのが昨日のことのようですが、二〇一四年も残り少なくなりました。本日に一年の過ぎる速さに驚いています。しかし、本年最後に浄土真宗寺院の最大行事「報恩講」を迎えます。天気予報では再び寒波襲来といつていますが、どうぞ暖かい二日間、多数の参詣をとお念じています。(住職 松井卓郎)

住職ひとりごと

仏教用語豆辞典

正念場

新聞には「国会、正念場を迎える」「外交交渉の正念場だ」「テレビでは「マラソンの正念場にさしかかりました」「金メダルの正念場です」
スポーツ新聞には「ペナントレースの正念場」

「正念場」はいろいろな分野で用いられています。しかし、正念場として、最も有名なものは、歌舞伎、浄瑠璃で、一曲一場の大事な見せ場、主人公がその役の本領を発揮する最も重要な場面をさします。これから転じて、ここぞという大事な場面や局面をいうようになりまし。

お釈迦さまが初めての説法の時、八正道という、仏教の実践方法を示されましたが、その一つが「正念」で、邪念を離れて仏道を思い念ずることをい

ます。また「末灯鈔」には「正念といふは本弘誓願の信樂定まるを信ずる心の定まったことを正念といっています。正念場とは、そんな大事な場をいいます。皆さんの正念場は、いつですか。

(本願寺出版社発行 辻本敬順著
「仏教用語豆辞典」一〇〇ページから)

師走・報恩講

今月四日の荒谷地区の恩講をもつて本年の恩講がすべて終了しました。

振り返れば、十月十五日からバイクで軽トラックで走り

回り、三百二軒のお家をお参りしました。無事に終えることができて良かったなと思うことです。

残りは秋参りが数軒残って

いますが、とりあえずは今月十五、十六日に執行します当山の報恩講に向けて、心も行動もまっしぐらです。

年も皆さまのところにお届けしました。明年は「智慧と慈悲」をテーマにした法語のようです。一年間、見えやすいところでおつきあいいただきたいと思えます。

例年と比べるとずいぶん速い降雪で予定がくるつていますが、報恩講当日は暖かければいいなと思います。

さて、法語カレンダーを今

法語について

現代社会は、少子高齢化がいよいよ進み、人口の減少、都市集中化がますます際立ってきています。科学技術の急激な進歩で、身近なところでも携帯電話やスマートフォンなどの機器が幼い子たちにも自由に使用れ、大変便利になってい

て必ず死んでいく」という事実は変わりません。釈尊は、「人生は苦なり」と説かれ、その源は自己中心のころから起る煩悩に支配されているからであると説かれました。釈尊の教えによりますと、この「私」の「苦」の姿を、そして「生死」の問題をしつかり見据えてこそ本当の人生を歩むということになり、本当の安寧、本当の幸せがあると見えましよう。しかし、そのような自己執着から逃れられない私たちは、自らをしつかり見つめることもで

きず、本当の安寧に至ることとはとてもできそうになく、それどころか、争いの絶えない世の中を生み出しているのです。その傾向は機器を相手とする現代の生活のなかでいよいよ強くなっています。

このような自己執着の世界の私たちとしては、真実に目覚められた如来の法を学び、如来の智慧と慈悲に照らされてこそ、本当の安寧の世界が実現されることになるでしょう。親鸞聖人は、自らを「愚悪なるもの」と厳しく見つめられ、釈尊の教えをいたただかれて、大

智大悲そのものである阿彌陀如来のはたらきに出遇われ、そこに真の安寧を得られました。ますます混迷を深める現代社会に生きるものとして、親鸞聖人のみ教えに学びながら、「如来の智慧と慈悲」のはたらきをいただき、さまざま課題に対応していかねば、と思うところなのです。

そのような意味から、二〇一五年のカレンダーは、「智慧と慈悲」をテーマとして、先達のお言葉・法語をいただき、この「わたくし」の聞法の歩みを確かめてまいりたいと思えます。

法語の世界

〈原文〉

心中をあらためんとまでは思ふ人はあれども、信をたらんと思ふ人はなきなりと仰せられ候ふ。

(蓮如上人御一代記聞書 百七十五)

〈現代語訳〉

「仏法を聞いて、心の持ちようをあらためようと思う人はいるけれども、信心を得ようと思う人はいない」と、蓮如上人は仰せになりました。

二〇一四(平成二十六)年

金光寺報恩講のお知らせ

日時

十二月十五日 午前十時 日中法要(上下参り)

(九区・十三区・十四区地区)

午後七時 速夜法要(お番)

十二月十六日 午前十時 日中法要(中央参り)

(十区・十一区・十二区地区)

講師

熊本教区 熊本西組 両嚴寺副住職

浄土真宗 本願寺派 布教使

郡 浦 智 明 師

その他

お参りの際は、門徒式章、念珠と聖典(お経本)をご持参ください。

報恩講期間中の日中法要(午前十時からの法要)にお仕事等でお参りできない方は、十二月十五日午後七時からの速夜法要にお参りください。

報恩講は、親鸞聖人のご命日を縁として、一年に一度、浄土真宗の門信徒が阿彌陀さまのみ教えに出遇わさせていただく、**浄土真宗では一番重要な法座です。**

是非、ご勝縁をお結びください。